

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた地域で、その人らしく豊かな暮らしが出来るように支援していく理念を作っている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の朝のミーティングにて理念を職員が声に出して読み、「出会い、ふれあい、支えあい」の理念のもと日々業務に取り組んでいる。ユニットの理念もあり、全体の理念と共に生活している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームの玄関に理念を掲示しご家族の方にも理解してもらおうようにしている。		家族の方などグループホームの新聞(普段の様子を記事にしたもの)を作成し送りたいと考えていたが、作成できなかった。今後は取り組んでゆきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方にも気軽に立ち寄って下さったり地域のお店、美容室など利用している。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会にも加入しており、町内会の活動、運動会、新年会などに参加している。		毎年行なっている当ホームの夏祭りに、今後も近所、地域の方を呼び交流していく。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ボランティアの方に来て頂いたり、近所の中学生の体験実習など受け入れている。町内の方からの介護保険についての相談などの対応もしている。		実習、ボランティアの方は、ホームを理解して頂くためにも、今後も受け入れていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価の詳細はすぐに読めるようにファイルしてある。評価にもいて、出来ていない点は改善するように取り組んでいる。</p>	<p>職員、皆に把握、理解して頂き、活用の仕方については、全員で話し合い取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1度、開催し活動報告、事故報告などご家族等へお伝えし、意見や要望を頂いている。</p>	<p>会議内容が一本調子にならぬように展開していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>わからない事、相談事は電話したり、役所へ行ったりしている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度について学ぶ機会は少ない。</p>	<p>勉強会などを開き、理解するように努めたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>学ぶ機会は少ないが、日々の業務の中で職員同志で話し合い注意し防止するように努めている。</p>	<p>今後もホーム内外での講習に参加し、徹底した虐待防止を継続していく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を結ぶときは、ご家族、ご本人にお会いし十分な説明をし理解していただいている。又ホームの見学もして頂いている。退去の際も十分に話し合いをし、理解を頂いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不満など表せる機会を特別には設けてはいない。日々の業務の中でお話する際に不満、不安などないか聞き、あれば改善するように努めている。		なるべく不満を溜め込まないよう、理解するように努めてゆきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に健康状態など現状報告は行なっている。面会の少ない家族には電話して報告している。金銭についても毎月お小遣い帳のコピーを同封して伝えている。(サインも頂いている)		新聞の発行を考えているが、発行できない。発行できるように取り組みたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情などを入れる意見箱を設置している。また、面会時等にコミュニケーションを図り対応している。		苦情が出た際は、カンファレンスにて報告し、発生要因を考えてゆく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度のカンファレンスを設け意見など聞き、改善するように心がけている。又、日々の業務内でも意見交換をしている。管理者・事業主に対しても気軽に話し合える環境である。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や受診日などの日はなるべく、職員が確保出来る様に調整はしている。また、ユニット毎生活リズムに合わせ出勤時間が違う。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	なじみの関係、信頼関係を築く為に、職員は異動が無いようにしている。退職者が出た場合は新しく入った職員に詳しく利用者のことを伝えトラブルが起きないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>なるべく職員全員研修に参加するようにしている。研修で学んだ内容を発表する場は設けてはいない。</p>	<p>伝達講習会を開き学んだ内容を他の職員に伝えられるような機会を作りたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は、定期的に行なわれる全市の管理者連絡会及び、南区の管理者の集いに参加している。また、南区で行われている、計画作成者の集まりにも参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>月に1度のカンファレンスで思いや悩み等意見交換をしている。職員間での交流会の実施をしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修に参加したり、勉強会を通して向上心をもって働けるように努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>サービス利用について相談があった時は必ず本人と面会し、本人の心身状態、想いに向き合い理解できるようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族の想い、苦労してきたことに耳を傾け、家族の想い・希望を確認している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な場合は、可能な限り柔軟な対応をし、場合によっては、地域包括支援センターや当デイサービス、他事業所のサービス等を提案している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人に合った生活習慣を大事にするように努めている。入居前に見学もして頂き、安心感を持ってもらう。また、安心して過ごしていただくために家族や知人の方に面会に来ていただく。		なるべく生活習慣に合ったケアができるように詳しく話しを伺いケアに繋げてゆく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員という立場にならず、家族のように接することに心がけ、不安や喜びを共に感じ支え合うように努めている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時、電話などで利用者の様子を伝えたりし、家族の想いを汲み取り、支援していることを伝え、信頼関係を深めるよう努めている。		ケアプランについてなど日頃の改善、問題点もお伝えし理解して頂けるような場を取り組んでゆきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時など日頃の様子を伝え家族で過ごす時間を大切にしよう努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	馴染みの知人友人が気軽に来訪できる雰囲気作りと馴染みの場所への外出の送迎などの支援。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の席の位置を考慮したりトラブルがあった際には職員が間に入って互いの気持ちを理解するよう傾聴している。		利用者同士の関係が上手くいくために皆で楽しめるレクリエーションや、外出なども計画検討していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	終了後も相談、要望があれば応じるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを一人一人聞くように努めている。また、ケアプラン作成時にも不安・希望を把握するように努めている。困難な方には家族と話し合いその方が望んでいる生活を支援している。		障害により自己表示が出来ない利用者様や、お話の出来ない利用者様のケアについては、職員や家族で話し合いより良いケアができるように検討している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族にも協力して頂き生活歴などを伺っている。今までの生活習慣も大事にするように、心掛けている。		生活歴をより詳しく記録し職員が、皆把握できるようにすることが必要。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別に生活を記録し心身の状態を把握している。申し送りノートを使用し職員、皆が把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居後はカンファレンスにて職員や管理者で現状の改善を話し合いケアプランを作成している。また、面会時には家族とも話し合い希望なども聞いている。		家族にもケアプランの内容を理解して頂くように話し合える時間を作る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランの日を設け計画作成者と、担当の職員がケアプランを作成している。内容はカンファレンスで話し合ったり、本人と話し合った内容を考慮し作成している。		家族、全職員がケアプランの内容を把握、理解できるように努める。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	生活記録、連絡ノート、申し送り時などに利用者の情報を共有するよう努めている。それを実践、ケアプランの見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	美容室や通院、買物など対応している。また、早期退院に向け慣れ親しんだホームで療養できるよう主治医、医療連携を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会のご支援や、消防、ボランティアの方の協力を頂いている。		今後もボランティアや、町内会等協力し合い上手に地域資源を活用してゆきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	札幌市のオムツサービスの利用や、地域の美容師の方が訪問してくださっている。		他にも要望があれば、いろいろ支援していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議にて情報を交換している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	2週間に1度の往診や、訪問看護師に相談し支援している。ホームの看護師にも日々協力して頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	全員ではないが、専門の病院に受診しているので、その都度相談したり、情報を頂いている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師1名があり、協力して頂いている。又、訪問看護師にも来て頂いている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	出来るだけお見舞い・面会に職員が伺い、入院中の状態把握と医療機関との情報交換・相談が可能となるよう努めている。医療が必要でなくなった際にはすぐに退院していただき、ホームでの生活に戻ることで利用者に安心して混乱することが少ないようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、意思の確認を行っている。今後、そういう場面に直面した場合も再度家族等に意向を聞き話合っていきたい。入居時に疾病を踏まえ今後考えられる状況を事前に伝えている。面会に来られたときにも利用者さんの状況を詳しく説明している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師、看護、職員と連携を取り、より良く暮らし安心できる終末期を迎えられるよう連絡を取りあっている。		今後、重度化してゆく利用者が多い為変化の備えての準備をしていく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報提供を細かに伝え、これまでの暮らしが継続的に進めるよう対応している。また、家族・関係者と時期、タイミング等にも十分に考慮している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとり声かけなど対応に気をつけるように心掛けている。また、個々の記録の保管にも留意している。		カンファレンスなどで再確認し日々気をつけていきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の希望に沿った暮らしをなるべくできるように努めている。家族に電話を何時でも掛けれる環境も作っている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的には一日の流れはあるものの、時間を区切った生活ではなく、個々の生活リズムを大切にしており、ユニット毎に出勤時間が違う。なるべく一人ひとり、希望に沿った生活をしていけるように、支援し生活ペースも大事にしている。		一人ひとり何がしたいのか把握する。個別の外出も計画していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月に1度美容師に訪問して頂き散髪している。パーマや髪染めする際は直接美容室に足を運んでいる。		毎日の身だしなみはまだ不十分なので女性は化粧を毎日するなど支援していきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	料理が好きな利用者は、職員と一緒に料理をしている。また、食事職員と利用者と一緒に取り、楽しいひとときとなっている。		メニューは利用者の希望を取り入れながら、体の面も考慮し作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師の制限が無い限り、本人の希望に沿えるようにしており、個々の好みを把握し、日常的に取り入れている。		行事には、入居者が作った梅酒などが飲めるように取り組んでいる。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンのリズムを把握し声掛け誘導など、トイレでの排泄を実施している。日中のリハビリパンツからピットリパンツへの励行。また、介護が重くてもトイレで排泄できるようにしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の状態や意向を確認しながら好きな時にゆっくりと入浴できるよう、相談しながら実施している。また、好みの入浴剤、ゆず湯などを楽しんでもらっている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活リズムを整え、就寝に向けてゆっくり穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。また、就寝前にホットミルクを飲む等安眠に繋がるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴からもっている力を発揮できるよう支援し、役割から達成感の持てる生活が送れるように支援している。必ず感謝の気持ちを言葉・表情で伝えている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談しながら、少額を自分の財布に持ってもらうなど、本人の状態に合った支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候気温を見て、出来る限り外出、散歩のできるよう、声掛けをしている。ADLに関らず利用者皆さんが外出できるように支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族からの協力を得て、昔からの馴染みの美容室や職員と一緒にスーパーへの買い物など外出の機会を作っている。		ADLや本人の希望、思い出の地などへ外出できるように取り組んでゆきたい。また、ご家族様にも協力して頂き外出の中で家族とのふれあいにも努めてゆきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	常に、自ら電話を掛けれるようにしている。障害等により掛けられない場合は、職員が援助している。手紙のやり取りもある。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人が見えられてもゆったりと過ごせるスペース(ラウンジ、和室)の活用と、雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一人ひとりの入居者の状況を把握し身体拘束のない生活を送っている。		身体拘束はどんなことに繋がるのか今後も勉強会や、研修を受けていく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	大半の利用者は部屋に鍵をかけずに生活をしているが、鍵を掛ける事が習慣になられている方はそのまま施錠されている。玄関は日中は施錠せずに生活を送られている。		部屋に鍵をかける事が習慣となっている方がおり、それはそのまま、支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜を通じ入居者の所在を把握している。職員が細かに配慮し安全・安心を守っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	裁縫道具(針、ハサミなど)など趣味として使用している方にはお渡ししている。管理の必要と判断した方については、管理しているが使用したい時にはいつでもお出しし、安全面においても配慮している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ケアプランにも載せて一人ひとりの状況に応じて事故防止に努めている。また火災等については、年に2度防災、避難訓練の実施をしている。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や自己対応できるように職員には救急救命講習を受講している。また、緊急時の連絡も確認している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災、避難訓練は年に2回実施しており、災害の意識も日ごろより気をつけている。また、各ユニットには消火設備も整っている。		地域への働きかけは十分とは言えない。今後、運営推進会議や町内会での集まりにおいて、働きかけてゆきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりに合わせた安全対応をとりながら、安全で自由な生活を送ってもらえるように、訪問時などにお話をしケアプランを確認して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常日頃、身体状況については留意しており、バイタルチェックも実施している。体調変化時には、管理者、看護師に報告し必要に応じ医師に連絡し対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の変更、用法、用量については処方薬表で確認している。変更時においても記録において職員全員に周知できるように徹底している。		内服薬、服薬時の注意事項を確認し、また内服忘れなど、服薬事故防止に向け職員間での声掛けやダブルチェックなど行なっているが、今後も事故防止に取り組んでゆきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便コントロールの為に必要な食材や乳製品の工夫を行い、水分や運動の確保、時間や本人の状況を見ながらトイレの誘導。また、排便時においても、姿勢に気をつけている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりに合った義歯洗浄や介助の実施、声かけなど行っている。また、口腔内の状況を把握し情報の共有に努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取が何故必要かまた、疾患により食事、水分の制限されていることを各職員は理解している。水分摂取チェックが必要な入居者には個別で対応している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、利用者、職員共に全員接種している、また手洗いうがいの実施、食材に対しても貝等の調理にも配慮している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所周り、調理器具やふきん類は毎日清潔を保つように漂白、洗濯している。冷蔵庫内は随時拭き清潔を保っている。食材の残りや、賞味期限のチェックも行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		<p>玄関や建物の周囲は花や木を植え玄関は光が入り明るい雰囲気になるようにしている。冬期間においても、除雪やロードヒーティングで歩きやすいようにしている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		<p>共用部分(居間、廊下、壁等)の飾りつけをし、普通の家のような雰囲気作り、また季節が味わえるように置き物、飾りつけをし居心地の良い環境作りをしている。また、利用者にとって不快な音や光はない。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		<p>リビングのほか、ラウンジ、和室があり時には、併設のデイサービスへ遊びに行かれたりと、一人ひとりが自由な空間へ行きゆったりとした、また自分にとって充実した時間が送れるようにしている。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		<p>馴染みの物、タンスやベット、置き物や、写真、絵など慣れ親しんだ物を持ち込んでもらっている。一人ひとりのお部屋が自分の部屋で居心地よく過ごせるように努めている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		<p>24時間換気や、排泄物の処理など気になるにおいが無いように努めている。温度や湿度調整もこまめに行い快適な暮らしが出来るようにしている。居間にはエアコンの設備もある。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>一人ひとり安全にまた、自立した生活が送れるように、福祉道具(歩行器、シルバーカーなど)の使用や、手すり(トイレ、浴室など)など住環境を整えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱や失敗を防ぐ為トイレや居室にスポットを当てたり、目印や表札を使用している。また、状態の変化があった場合は何が原因かアセスメントし対応している。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>施設敷地内に畑を作り、作物を共に植え、収穫し食卓に並ぶ。また、花も楽しめるようにプランターや、畑に鮮やかな花を植え外を見る楽しみ、心が豊になるように努めている。</p>		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)・施設全体の理念のほかに自分たちのユニットの理念も作成し 1人1人の思いをたいせつに 笑顔の絶えない毎日 思いを实践できる をむねに入居者と職員が一体(家族)となって生活している。ご家族にも連絡を密に取り家族を巻き込んだ支援が出来ている。